

果樹情報 第7号 (R7.6.25～R7.7.8)

県中農林事務所須賀川農業普及所・JA 夢みなみ(すかがわ岩瀬地区、あぶくま石川地区)

1 果樹の生育状況

果実肥大については、もも「あかつき」で暦日・満開後日数対比共に平年よりやや大きく、りんご「ふじ」・なし「幸水」「豊水」は暦日対比で平年よりやや大きく、満開後日数比較で平年並です。

表1 管内の各樹種における果実肥大状況（令和7年6月15日現在）

樹種	品種(調査地点)	本年		平年		平年比	
		縦径 mm	横径 mm	縦径 mm	横径 mm	縦径	横径
りんご	ふじ(須賀川市浜尾)	40.9	40.4	36.4	37.0	112%	109%
	ふじ(鏡石町高久田)	34.1	31.6	35.5	35.4	96%	89%
	ふじ(石川町沢井)	38.7	43.7	33.4	32.8	116%	134%
	つがる(石川町沢井)	35.5	34.5	36.0	38.3	99%	90%
	ジョナゴールド(石川町沢井)	36.9	39.8	36.6	38.4	101%	104%
	シナノスイート(石川町沢井)	34.7	34.5	35.2	35.6	99%	97%
もも	あかつき(須賀川市江持)	47.3	43.1	44.4	40.5	106%	106%
なし	幸水(須賀川市越久)	26.1	30.4	25.4	29.3	103%	104%
	豊水(須賀川市越久)	29.1	31.9	27.3	29.5	107%	108%

2 生育予測と栽培上の留意点

(1)共 通

梅雨期に降水量が多いと、湿害の危険性が高まります。土壌の過湿は、葉の褐変や黄変落葉を引き起こす原因となるので、停滞水が発生しやすい園地では排水対策を徹底しましょう。そして、落葉した場合は着果量を見直すようにして下さい。

また、今後降水量が少なく土壌が乾燥する場合には、下記を参考に栽培管理を実施しましょう。

ア かん水

5月から夏季にかけて果樹園からの1日当たりの蒸発散量は、晴天日で6～7mm、曇天日で2～3mm、平均で4mm 程度であるので、1回のかん水は 25～30mm 程度(10a当たり 25～30t)を目安として、5～7日間隔で実施しましょう。保水性が劣る砂質土壌などでは、1回のかん水量は少なくして、かん水間隔を短くします。

イ 草刈り

樹と草との水分競合を防ぐため、草生園では草刈りを行いましょう(草生園における地表面からの蒸発散量は、刈り草をマルチした場合、草刈りしない場合の約半分となります)。

ウ マルチ

刈り草や稲わらのマルチを行い、土壌水分の保持に努めましょう。

(2)なし

ア 生育予測(農業総合センター果樹研究所:福島市飯坂町)

DVRモデルによる「幸水」の収穫予測は、収穫盛期が8月25日と推測され、平年より4日早い見込みです。また、同モデルによる裂果初発日は7月8日頃と推測されています。

イ 着果管理

仕上げ摘果はできるだけ速やかに終了させてください。ただし、裂果が観察される時期は他の果実の裂果発生を助長させるおそれがあるため、摘果を控え、裂果が終息したら修正摘果を実施しましょう。

樹勢の低下や果実肥大の鈍化が観察される場合は新梢停止期前(満開後 60～70 日)に着果数の 10～15%程度を目安に摘果し、着果数を調整しましょう。なるべく果形、肥大の良い果実を残し適正着果量に調整するよう心がけましょう。

裂果終了の目安:満開後90日頃(須賀川市の幸水で7月21日頃)

ウ 新梢管理

「幸水」で副芽枝(果そう葉)新梢の飛び出しが多い場合はこれを摘心しましょう。副芽枝を摘心する場合は側枝基部から20～40cm程度を目安とし、ロゼット状の基部葉とその上位2～3節を残して摘心を行うと果実肥大と花芽形成に効果が期待できます。

また、腋花芽着生向上を主な目的として新梢誘引を実施します。予備枝誘引は新梢生育が停止する前に完了する必要があるため、満開後65～75日(須賀川市の幸水で6月26日～7月6日)の間に作業を進めてください。新梢誘引は腋花芽着生向上のほか、下垂したり枝越しとなった新梢は方向を修正するとともに、側枝先端部の新梢が倒れた場合には立てるように誘引することで、樹体の受光条件向上、薬剤散布の効率化、翌春における長果枝棚付け作業の効率化などの効果も期待できるので「幸水」以外の品種でも積極的に実施しましょう。

「豊水」では、満開後60日頃(須賀川市では6月20日頃)に新梢伸長が緩慢となる予備枝は、翌年の果実肥大と果形がよいので、直ちに誘引を開始しましょう。

(3)りんご

ア 着果管理

7月は花芽分化期です。仕上げ摘果の遅れは花芽分化率を低下させる原因となるので、速やかに終了させてください。なお、仕上げ摘果終了後は随時修正摘果を実施し、小玉果や変形果、病虫害の被害果、傷果、サビ果等を摘果してください。

また、高温条件下では果実に直射日光が当たることにより日焼け果の発生を助長するため、着果位置に留意しましょう。結実の少ない園地は着果数の確保を優先し、著しい不良果そうを対象に、最小限度の摘果を行いましょ。

イ 枝吊り・支柱立て

樹冠内部や下枝に着果した果実は着色不良となりやすいので、樹冠内部の日当たり改善と枝折れ防止、防除効果の向上のため、枝吊りや支柱立てを行いましょ。

なお、高温条件下では、果実に直射日光が当たると日焼け果が発生しやすくなるため、果実が果そう葉で隠れるようにするなど着果位置に留意するようにしましょ。

(4)もも

ア 核障害(農業総合センター果樹研究所:福島市飯坂町)

満開後 60 日における「あかつき」の核障害発生状況は、核頂部亀裂が 25.0%で平年よりかなり少なく、縫合面割裂は 15%で、平年よりかなり多い傾向にあります。

イ 硬核期(農業総合センター果樹研究所)

本年のもも「あかつき」の硬核期開始は6月5日で、平年より4日早い状況です。

ウ 収穫期予測(農業総合センター果樹研究所)

DVRモデルによる発育予測では、あかつきの収穫開始日は7月27日頃で、平年より4日早い見込みです。

エ 修正摘果

硬核期が終了し、果実に肥大差が見られるようになったら実施しましょ。果頂部が変形している果実や縫合線が深い果実、果面からヤニが噴出している果実、果皮が変色している果実、果頂部の着色が早い果実などは、核や胚に障害があることが多いので、これらの摘果を実施しましょ。

オ 着色管理と早生品種の収穫

「あかつき」の収穫期は平年より早まる予測ではありますが、今後の気象によって変動するため、各園地及び品種ごとの果実の成熟状況に注意し、枝吊りや支柱の設置、夏季せん定及び反射シート設置等の収穫直前の管理作業は、時期が遅れないよう計画的に、実施してください。

3 病虫害防除

(1)リンゴ褐斑病・輪紋病

果樹研究所における褐斑病の果そう葉及び新梢葉での発病が既に確認されています。梅雨期は二次感染を繰り返すおそれがあるため、10 日間隔で本病防除剤を使用し、防除を徹底しましょ。

また、輪紋病は果実、枝梢部ともに感受性が高い時期となるため、梅雨期にいずれの病害にも効果がある薬剤を十分量散布するようにしましょ。

(2)モモせん孔細菌病

梅雨期は二次感染により発病が急増するおそれがあるため、引き続き注意が必要です。薬剤防除に当たっては、10 日間隔でせん孔細菌病防除剤を使用しましょ。その際、早生種は収穫前日数に十分注意してください。また、罹病部位は見つけしだい取り除き、発生拡大が懸念される場合は速やかに袋かけを行ってください。

(3)モモホモブシス腐敗病、灰星病

早生種では灰星病の重要防除時期に当たるので、6月中下旬及び7月上旬頃に防除剤を散布しましょ。中～晩生種ではホモブシス腐敗病と灰星病を防除するために、防除暦に従って農薬の散布を行ってください。薬剤防除は、収穫前日数に十分注意して実施するようにしましょ。

(4)ナシ黒星病、輪紋病

梅雨期は二次感染により黒星病の発病が急増するおそれがあるため、罹病部位は見つけしだい取り除き、園外に持ち出して処分するなど耕種的防除を徹底してください。特に、「幸水」では本病に対する果実の感受性が高い時期(満開後50～90日頃 須賀川市の幸水では6月11日～7月21日)が梅雨期と重なるため、注意が必要です。輪紋病も重点防除期になるため、梅雨期に両病害に効果がある薬剤を降雨前に十分量散布してください。

(5)モモハモグリガ

病虫害防除所が実施した5月上旬の巡回調査において、モモ新梢葉における発生ほ場割合は、平年に比べ高く、一部のほ場では被害程度も高くなっています(5月21日付け令和7年度病虫害防除情報)。

第2世代成虫の誘殺盛期は、今後の気温が2℃高く推移した場合、6月6半旬頃と予測され、第3世代の防除適期は6月6半旬頃と推定されます(表3)。

本種の発生には放任園や無防除のハナモモ園が影響していると考えられるため、こうした発生源が近隣に存在する園地では、今後も発生に注意しましょう。

(6)ナシヒメシンクイ

第1世代成虫の誘殺盛期は、今後の気温が2℃高く推移した場合、6月4半旬頃と予測され、第2世代の防除適期は6月5半旬頃と推定されます(表3)。

本種の第1世代幼虫は、主にモモ等の核果類の新梢に寄生(芯折れ症状)し、第2世代以降はナシなどの果実に移行します。例年、ナシでの果実被害が多い地域では、近隣のモモ等における防除も徹底しましょう。なお、薬剤による防除を実施する場合には、使用基準を遵守しましょう。

(7)モモノゴマダラノメイガ

被害が発生しているモモ園では、他のシンクイムシ類との同時防除も含め、生育に合わせ6月上旬頃から10日間隔で2～3回防除を行いましょう。被害果実は見つけしだい摘除し、5日間以上水漬けにするか、土中深く埋めましょう。また、前年に被害が多発した園では袋かけを早急に実施しましょう。

(8)ナシマルカイガラムシ

果樹研究所内のリンゴでは、6月6日に歩行幼虫の発生が初確認されました。ナシマルカイガラムシ第1世代のふ化開始は、6月1半旬頃と予測され、ふ化盛期は6月3半旬頃と推定されました(表3)。カイガラムシ類はふ化期の防除が重要であるため、防除適期を逃さないように防除しましょう。ただし、1回の防除では十分でないため、1週間から10日後にもう1度防除することが望ましいです(平成31年3月果樹指導要綱技術編)。

(9)ハダニ類

高温期は増殖が速いのでハダニ類の発生状況をよく確認し、要防除水準(1葉当たり雌成虫1頭以上)の密度になった場合、速やかに防除を行いましょう。

(10)カメムシ類

病害虫防除所のフェロモントラップ調査におけるカメムシ類の越冬世代の誘殺数は、県北・相双地方を中心に8地点中4地点で平年の3～7倍と多い傾向にあります(6月13日付け令和7年度病害虫防除情報)。当管内におけるフェロモントラップ調査においては、誘殺数は少なく推移しています。しかし、今後発生量が増加する可能性もあるため、飛び込みをよく観察し、多数の飛来が見られる場合は速やかに防除を行いましょう(表2)。

表2 JA 夢みなみ・須賀川農業普及所カメムシトラップ調査結果

設置日	5月23日			5月22日			5月26日			6月3日		
	須賀川市和田六軒			須賀川市越久			鏡石町高久田			石川町		
調査日	チャバネアオ	クサギ	備考	チャバネアオ	クサギ	備考	チャバネアオ	クサギ	備考	チャバネアオ	クサギ	備考
6/2	0	0		0	0		0	0		6/9 調査開始		
6/9	0	0		8	0		6	0		1	0	
6/16	1	0		0	0		0	0		2	0	
6/23	1	2		7	0		7	0		9	0	

表3 果樹研究所における防除時期の推定(令和7年6月13日現在)

今後の気温予測	モモハモグリガ		ナシヒメシンクイ		ナシマルカイガラムシ	
	第2世代 誘殺盛期	第3世代 防除適期	第1世代 誘殺盛期	第2世代 防除適期	第1世代 ふ化開始	第1世代 ふ化盛期
2℃高い	6月26日	6月30日	6月17日	6月25日	6月2日	6月11日
平年並	6月29日	7月3日	6月19日	6月29日	6月2日	6月11日
2℃低い	6月30日	7月5日	6月19日	7月1日	6月2日	6月11日

起算日：モモハモグリガ第1世代誘殺盛期 6月2日
ナシヒメシンクイ越冬世代誘殺盛期 4月21日
ナシマルカイガラムシ 3月1日(演算方法は三角法)

作成者：県中農林事務所須賀川農業普及所 電 話：0248-75-2181 FAX:0248-72-8331	ご不明の点は、最寄りのJAまたは須賀川農業普及所にお問い合わせください。次回の発行予定日は、7月9日(水)です。
--	--